

中国語教育学会会報

第52号(通巻77号) 2018年5月23日発行

〒183-8534

東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 三宅登之研究室内

中国語教育学会

Website <http://www.jacle.org/>

Email headoffice@jacle.org

郵便振替口座 00110-1-191152

目次

1. 会長挨拶
2. 新役員紹介
3. 委員紹介、研究会担当紹介
4. 中国語教育学会第16回全国大会について
5. 事務局からのお知らせ(事務局移転、新入会員ほか)

1. 会長挨拶 三宅登之

この4月より、2018年度～2019年度の会長を担当することになりました、東京外国語大学の三宅登之と申します。不慣れな業務であるため、すでに様々な方面でご迷惑をおかけしております。この会報も発行が遅れました点、お詫びいたします。

近年、書店では嫌中・嫌韓に関する本も店頭に並び、ネット上でもそのような言論を目にする機会が少なくありません。それぞれの考えを持つのは自由として、中国での実情を全く知らずに、一部の本やネット上の情報だけを鵜呑みにし、色眼鏡を通して他の国や国民を見ている人がいる状況は、大変残念です。

中国語教育学会の会員の皆さまは、中国語教育に携わっておられる方や、何らかの形で中国語教育に関心を持たれている方が多いかと思いますが、このような時期だからこそ、中国語教育の果たす役割の重要性は、ますます大きなものになるであろうと考えています。他者を理解するためには、まずその相手の言葉を理解することが出発点でしょう。中国語を例にとれば、教えている学生たちが中国語を使えるようになり、自分で中国語で書かれた一次資料を読みとき、中国語を使って中国人と交流し、現地に赴いて自分の目で現状を見るなど、中国語は、直接自分自身で中国を知る際の重要なツールとなります。

また改めて言うまでもなく、外国語の学習は、単にそのようなツールを身につけることにとどまらず、新たな視野を広げることでもあります。中学・高校の段階で多くの日本人は英語を学びますが、さらに中国語を学ぶと、英語とは全く異なる世界の切り方をする言語があり、そのような思考をしている人々がいるのだということを、身をもって知ることができます。グローバル化というキーワードを耳にすることがよくありますが、英会話ができること(それはそれでももちろん重要なことですが)がグローバル化であるということではないでしょう。他の外

国語を学び、日本語や英語以外の多様な世界の見え方があるのだということを実感すること、これこそが真の意味でのグローバル化なのではないでしょうか。

もちろん以上のことは、中国語教育に携わっておられる中国語教育学会の会員の皆さまは周知のことであり、私がこの場で改めて言うようなことではありません。ただ、特に若い世代の人たちに中国語を教える場合、若い世代への影響の大きさを考えると、教える側はその教育の重要性を再認識した上で教育に従事することが重要になるのではないかと思い、私見を述べさせていただきます。

非力な私が会長の役目を果たしていくには、理事各位のご協力と、会員の皆様のご協力が不可欠です。今後2年間、ご支援とご指導を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 新役員紹介（2018年4月～2020年3月）

昨年末に行われました選挙において得票数10位以内の方に加えて、内規に基づき地域や勤務先のバランス等を考慮して更に5名の方に理事をお願いすることにいたしました（選挙結果につきましては会報第51号をご覧ください）。手続きとしては、6月の全国大会初日に開催される会員総会の承認を経て正式に決定します。

（以下五十音順、敬称略）

顧問：荒川清秀、輿水優、佐藤富士雄、依藤醇

会長：三宅登之

代表理事：郭春貴、平井和之、古川裕

理事：植村麻紀子、内田慶市、加藤晴子、清原文代、胡興智、佐々木勲人、鈴木慶夏、鈴木慎吾、陳淑梅、中西千香、西香織、平山邦彦、藤井達也、丸尾誠、村上公一、山田眞一

幹事：伊藤大輔、李軼倫、渡邊奈津子

会計監査：白銀志栄、山田忠司

3. 委員紹介、研究会担当紹介

（以下五十音順、敬称略）

『中国語教育』第17号（2018年度）編集委員会

飯田真紀、加藤晴子、張恒悦、中西正樹、町田茂、丸尾誠、森宏子（委員長）、李貞愛

デジタルリソース委員会

田邊鉄、中田聡美、氷野善寛（委員長）

第16回全国大会（2018年度）準備委員会

石井友美、伊藤大輔、植村麻紀子、氷野善寛、村上公一（委員長）、楊達

第16回全国大会（早稲田大学）の発表題目については、下記「4. 中国語教育学会第16回全国大会について」をご覧ください。

研究会担当（2018年度）

東日本担当：植村麻紀子（神田外語大学）、藤井達也（埼玉県立和光国際高等学校）

西日本担当：中西千香（立命館大学）

中国語教育学会は年に数回（不定期）、日本各地で研究会を開催しています。研究会での発表を希望される方は、以下のメールアドレスまでご連絡ください。

研究会担当メールアドレス（植村・藤井）：kanto@jacle.org

研究会担当メールアドレス（中西）：kansai@jacle.org

4. 中国語教育学会第16回全国大会について

2018年6月2日（土）～3日（日）に第16回全国大会が早稲田大学早稲田キャンパス（東京都新宿区西早稲田1-6-1）にて開催されます。1日目には基調講演、ワークショップ、会員総会、懇親会等が、2日目には研究分科会が開かれます。詳細については既に全国大会準備委員会より送付済みの参加案内または本学会ウェブサイトをご覧ください。皆様どうぞ奮ってご参加ください。主な発表内容は以下の通りです。

1日目（6月2日）

基調講演

外国語学習の科学～第二言語習得論の中国語教育への示唆～

白井 恭弘（ケース・ウェスタン・リザーブ大学）

多言語ワークショップ（90分授業＋ふりかえり30分）

「身近な言語をもっと知ろう ○○語は90分でここまでできる」

ドイツ語：池谷 尚美（横浜市立大学・非）

スペイン語：落合 佐枝（獨協大学・非）

フランス語：押尾 江里子（佼成学園女子中学高等学校）

ロシア語：福田 知代（東京都立北園高等学校・非）

日本手話：松岡 和美（慶應義塾大学）、小林 信恵（慶應義塾大学・非）

韓国語：亀井 みどり（上智大学・非）、中川 正臣（城西国際大学）

同時開催企画

「早稲田大学の外国語教育 チュートリアル中国語・英語（見学）」

コーディネイター：村上 公一（早稲田大学）

2日目（6月3日）研究発表

| 第1セッション | |
|----------------------|--|
| 小川 典子（立命館大学） | 日本語を母語とする中国語学習者の読解活動の中での未知語への「気づき」—think aloudによる事例研究— |
| 三井 明子（北京大学・院） | 日本人汉语学習策略表現及相关因素的探討——以某北京高校短期留學生为例 |
| 第2セッション | |
| 柳 素子（大阪府立門真なみはや高等学校） | コーパスデータに基づいた“愿意”の意味用法について—“想”との比較から |
| 建石 始（神戸女学院大学） | コーパスを活用した中国語教育にむけて—程度副詞「非常」を例に— |
| 第3セッション | |
| 周 振・吉本 啓（東北大学） | 中国語の存在表現に関する再考察及び教授法への提案 |
| 張 立波（東北大学） | 关于表示存在的“有”字句和“在”字句的偏误分析以及教学法的探討 |
| 第4セッション | |
| 張 雯茜（東京学芸大学・院） | 中国語スピーキング力育成に特化した教材について—『漢語縦横会話課本』を中心に |
| 張 婧禕（名古屋大学・院） | 日本語話者による中日音韻類似性の主観的判断における背景諸要因 |
| 第5セッション | |
| 山下 一夫・吉川 龍生（慶應義塾大学） | イギリスから見た日本の中国語教育——学習指導要領の問題を中心に |
| 齋藤 貴志（麗澤大学） | TECCの結果からみる日本人中国語学習者の現状についての—考察 |
| 第6セッション | |
| 全 民（神田外語大学） | 通过五种技能综合训练提高学生以交流为中心的中文口语技能 |
| 岩崎 皇（駒澤大学） | 音声提示学習法について |
| 第7セッション | |
| 謝 平（立命館大学） | 存現文についての—考察—動詞部を中心に |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 張 恒悦 (大阪大学) | 可能補語をどう教えるべきか——日本語母語話者が産出した誤用例の分析を通して |
| ポスターセッション | |
| 辻 千春 (愛知文教大学) | 「中国語学修意欲の維持・継続と中国語運用能力養成のための小規模大学における‘能動的教育’の実践例—3本の矢：カリキュラム＋『中国語ポートフォリオ』＋CCラウンジ (Chinese Communication Lounge) 」 |
| 浅野 雅樹 (慶應義塾大学) | 中国語学習辞書の「用例」の提示について— 語彙論的考察を中心として— |
| 木子 香・大西 克彦・曾 旻陽・中瀬 優佳 (大阪電気通信大学) | 桌游学量词—— 汉语学习辅助教材的开发 |
| 陳 夢夏 (一橋大学・院) | 「自己モニター」を用いた発音指導の試み |

5. 事務局からのお知らせ

5.1 事務局移転について

会長交代にともない、事務局を以下に移転しました。

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

東京外国語大学 三宅登之研究室内

中国語教育学会事務局

E-mail : headoffice@jacle.org (変更ありません)

電話・faxによるお問合せは受け付けておりません。あしからずご了承ください。

5.2 新入会員について

2018年5月10日現在の会員数は497名（内顧問・名誉会員27名、住所不明者4名）です。

なお会報第51号発行時（2018年1月20日）以降の新入会員は以下の通りです。

孫日環（大阪大学大学院言語文化研究科・院）、王楓（大阪大学・院）、清水由香里（大谷大学・非）、醍醐美和子（杏林大学・非）、李満紅（早稲田大学・非）

5.3 個人情報の変更等について

本学会では、会員の個人情報につきましては各会員ご自身により入力していただくことになっております。所属や連絡先、郵便物の送付先等に変更が生じた場合は、本学会ホームページにリンクされている「WEB版会員名簿」(https://a-youme.jp/jacle/member2/login_do.php)にログインの上、登録情報を随時変更していただきますようお願いいたします。

WEB版会員名簿（会員情報管理システム）の運用については、あゆみコーポレーションに委託しております。WEB版会員名簿に関するお問合せは下記のあゆみコーポレーションまでお願いいたします。

〒550-0001 大阪市西区土佐堀1丁目4-8 日栄ビル703A

あゆみコーポレーション内 中国語教育学会事務局事務代行

E-Mail support@jacle.org

TEL. 06-6441-5260（代） FAX. 06-6441-2055（代）

あゆみコーポレーションは複数の学会の事務局業務の代行を行っており、電話番号、ファックスとも他学会と共通で使用しているため、ご連絡の際には「中国語教育学会」についての問い合わせであるということを必ずお伝えください。

5.4 各種情報提供のお願い

中国語教育に関連する催し物（スピーチコンテスト・シンポジウム等）の情報がございましたらお知らせください。本会ウェブサイトに掲載し、周知の一助とさせていただきます。